慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　1回20日発行

三四会ホームページ

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時　午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（33353）1211（大代表）

令和6年度 入学式

医学部109回生 110名が入学

令和6年4月1日に慶應義塾大学入学式が日吉記念館にて行われた。昨年と同様、YouTubeでの同時配信も併せて行われた。本年度より全学部合同での入学式開催となった。

開式の後、松浦良充常任理事から学事報告が行われ、各学部の入学者が発表された。本年度の学部および別科・日本語研修課程の入学者数は、6407名、医学部110名、看護医療学部100名、薬学部266名であり、全体としては昨年度の入学者数から50名程度減少、医療系学部としては、医学部は変化なし、看護医療学部は10名減少、薬学部は昨年度の入学数と比較すると50名増加であった。

続いて、伊藤公平塾長により式辞が述べられた。慶應義塾大学の目的が読み上げられ、全員が先導者クラブのメンバーとして力を合わせて理想を追及するという慶應義塾の考え方が紹介された。また、技術の進歩によって急激に変化する現代社会で常に科学技術の上に存在できるよう、福澤先生が「学問のすゝめ」の中で説いた学び続ける力が必要だと語られた。最後に、教員や留学制度、体育会やサークルなど慶應義塾大学が用意するすべてのリソースを活用して有意義な大学生活を送ってほしいというエールが送られた。

式辞に引き続き、伊藤塾長によって壇上者の紹介がなされ、その後、薬学部の熊谷直哉教授により、教職員代表祝辞が述べられた。新入生に対してのお祝いの言葉の後、一人一人が責任のある自由の下で純度の高い情報・知識を能動的に蓄え、豊かな創造性でリーダーシップを発揮してほしいと語った。また、時代や国、地域によって社会環境が変化しうることに触れ、時代に合った決定によって多くの人を導いていってほしいと述べられた。

続いて、新入生代表の法学部一年の鈴木夕貴君により入学の辞が述べられた。入学の喜びを述べた後、福澤先生の教えである「実学の精神」を身につけ、それを実社会に活用することが現在の世界で山積する課題を解決するために不可欠だと述べられた。この精神のもと、良き社会の先導者として世界に貢献する使命感を持ち、自らが決めた道を邁進する覚悟と決意が述べられた。

その後、卒後50年記念1974年（昭和49年）115三田会寄付目録贈呈として会長の落合正行さんから挨拶のお話をいただいた。お祝いの言葉を述べられた後、慶應義塾で多くの良き友や師に出会い、素晴らしい人間関係を築いてほしいと述べられた。また、福澤先生の2つの言葉、「人に貴賤の上下はないが、勉強したかしないかの差は大きい」「努力は『天命さえも変える』」を紹介され、この教えを礎として充実した学校生活を送ることを祈念された。終わりに、卒業50年記念募金活動の成果が贈呈された。

終幕に、塾歌斉唱が行われた。新入生6407名の入学を喜ぶとともに、今後の活躍に期待したい。

（4年　梅原千里、2年　永田みのり）

新入生に贈る言葉

理想とする医師像の土台形成を

三四会長　武田　純三（52回）

慶應義塾大学医学部入学おめでとう。これから6年間、日吉と信濃町で医学を学ぶことになります。希望で胸いっぱいと同時に不安も抱えているかと思います。

7月3日に新しい千円札が発行されますが、お札の肖像画は北里柴三郎先生です。慶應義塾の創設者は福澤諭吉先生ですが、慶應義塾大学医学部を作ってこられたのは北里柴三郎先生です。すなわち慶應義塾大学医学部には、二人の師がいることになります。福澤諭吉先生と北里柴三郎博士の二人の関係をご存じでしょうか。北里先生は、福澤先生から受けた恩顧に答える「報恩」として、慶應義塾大学医学部の設立に参画し、初代医学部長、病院長を努められました。

これから6年間、医学を勉強することになりますが、学ぶべきことは科学としての医学だけではありません。医療者としての倫理、科学に対する姿勢や考え方も学びます。そこには慶應義塾大学医学部で学ぶ者が知っておくべき、福澤諭吉先生の慶應義塾の建学の精神、北里柴三郎先生による慶應医学の志なども含まれてきます。

医学部に進学するにあたっては、医学を志すことになった動機や想いがあったかと思います。しかし、実際の医療の現場に接してみて、その考えが変わることも不思議ではありませんし、成長するには変化が必要かもしれません。この6年は、医師としての本質となる心構えを少しずつ養い育てるための、基礎作りの期間とも言えます。

慶應義塾大学医学部では、2006年より白衣式を全国の医学部に先立って行ってきました。医師としてのプロフェッショナリズムを学生の皆さんに考えてもらうことが目的です。医師として求められる義務や倫理に加えて、自らが医師として果たしていきたいと考えている、自分がなりたい医師像を形作る場となります。しかし、ここで医師像が完成するわけではありません。今後生涯医師として活躍するための、医師像の土台を作り上げるための大切な時期となります。

慶應義塾大学医学部には、海外留学、研究コースなどの他に、三四会の名前がつく医学部の各種クラブもあり、幅広い学びの機会が用意されています。医師としての人生の土台作りの6年間を、日吉と信濃町に留まらず、幅広く学んで、広い視野を持った医師を目指して下さい。それは、我が国を牽引してきた福澤・北里両先生の訓えでもあります。

冒険と挑戦のスタートラインに立つ君たちへ

常任理事　北川　雄光（65回）

新入生諸君、ご入学おめでとうございます。そして慶應義塾へようこそ。まず、君たちを迎える日吉キャンパスは、それぞれの夢や希望を胸に秘めた多様な塾生たちがお互いに刺激し合いながら成長できる貴重な舞台です。自分が育ったそれまでの環境や考え方から一旦解き放たれて、自由に多くのことを学び、大切な生涯の仲間と出会ってください。

君たちは今までにも増して変化の速い未来社会を生きていかなければなりません。歴史上にもお手本となるような理想的なモデルが存在しない中で、「地球全体の未来」を考えなければならない大変な世代です。慶應義塾は、自分達が生きる未来を、自分ごととして創造できる真のグローバルシチズンの育成を目指しています。慶應義塾が建学の目的として掲げる「社会の先導者」として活躍するための世界観を学生時代から身につけましょう。

医学部を卒業して医療・医学の分野にプロフェッショナルとして歩み出してからもさまざまな経験ができますが、学生時代にはより柔軟に、より広く、大胆に社会や世界を俯瞰することができるはずです。どうか躊躇せずさまざまな冒険や挑戦をしてください。その冒険や挑戦の中で医学・医療の素晴らしさをいろいろな観点から感じてください。どのような場所でも、どのような時代でも命と向き合い、人々の暮らしを支える医学・医療の尊さを感じてください。学生時代は、理屈抜きに生涯を捧げることができるもの、没頭できるものを医学・医療の分野に限らず見つけるチャンスでもあります。どうか人生で最も生き生きと輝くこの季節を存分に謳歌してください。

入学おめでとう

医学部長　金井　隆典（67回）

新入生の皆さん、入学おめでとう。まずは、今ここにいる自分自身を振り返り、これまでサポートしてきてくれた方々への感謝の気持ちを思いっきり表現してください。そういった方々は、諸君と同様にこの日を感慨深く眼を細めて微笑んでいるはずですから。

慶應義塾大学医学部は、全ての学生の輝かしい未来を全力で応援していきます。大きな夢をしっかり設定し、自分らしいユニークなプロフェッショナリズムを達成するための基盤を、是非、この6年間で構築してみてください。6年間はあっという間です。いますぐ、短期的、中長期的な目標を思い描いてみてください。しかし、途中で、軌道修正はよくあります。それも心配ありません。

初期の日吉キャンパスでの1年間は、リベラルアーツや自然科学を中心に、人生の幅を広げるための時間と捉えてください。これまで多少我慢してきたと思いますが、是非、たくさんの書物を読みあさってみて下さい。文章を大量に読み、理解し、考える過程は極めて重要で、医学へ本格的に進む上でもきっと大きな糧となります。ここで重要なのは考えることです。自分自身の考えを持ち、全国から集まって来た友人とディベートを通じて人間力を形成して下さい。医師、研究者、行政者、起業家として社会に出る未来に向けて、医学の勉学はもちろんのこと、有限な6年間を上手に活用して、常に挑戦し続けてください。今日は、出発点です。これからがとても大事なんです。

医師国家試験は、皆さんにとっては、それほど難しい目標ではないかもしれません。せっかく慶應に入学した諸君にとっては、さらに高みを目指し、在学中に基礎研究に没頭しノーベル賞級の発見をすることだって、米国の医師国家試験に挑戦してみることだって、様々なボランティアに力を入ることだって、1，000冊本を読むことだって、何でも挑戦してみてはいかがでしょうか？多様性が大事です。主体的に何かに没頭してみてください。

多くの皆さんは6年後には親から独立し、経済的にも社会的にも独立していくことでしょう。しかし、順風満帆な人生などはごく限られた例外であり、大抵の人は、これからもさまざまな困難が幾重にも直面してくると思います。その解決策は、私は〝ブレない夢〟を持ち続けることだと思います。是非、今一度〝ブレない夢〟を明確に設定し（大学生時代は軌道修正可）、それを持ち続けて、これからの6年間の学生生活に活かしてもらいたいと思います。〝感謝の気持ち〟と〝ブレない夢〟を持ち続けていけば、きっと、大抵の困難は克服できるものです。慶應義塾はそうした新入生の皆さんを応援していきます。

入学、おめでとう！それと、視野を広げるために、この6年間で、全員、英語はペラペラになりましょう！　残念ながら、この世界の知識（過去の知見）は日本語の100倍、英語で保存されていますので。

医学・医療の未来を創ろう

病院長　松本　守雄（65回）

109回生の皆さん、この度のご入学誠におめでとうございます。われわれ教職員も皆さんを心から歓迎いたします。

皆さんは晴れて慶應義塾大学の医学部生となり、これからの学生生活に対する期待に胸を膨らませ、医師、研究者あるいは起業家としての将来の夢や目標もすでに心の中に抱いているでしょう。皆さんが今後研修を行い、そして将来勤務することになるであろう慶應義塾大学病院は北里柴三郎博士を初代病院長として1920年に開院しました。以来、104年の歴史を通して、北里博士の精神でもある基礎・臨床一体型の医学・医療を追求し、各診療科が密に連携をしながら質の高い医療で多くの患者の方々の命を救い、また新しい医療の開発・発展にも貢献し、国内外からも高く評価されるようになりました。昨年11月には麻布台ヒルズ内に新しい予防医療センターが開設され、受診者の生活や人生に寄り添った未来型の予防医療を展開しています。

慶應病院には毎日3000人を超える患者の方々が来院され、800人を超える方々が入院しています。これらの患者さんひとりひとりが異なる価値観や家庭的・社会的背景、そして医療への期待感を持っています。それぞれの患者さんにしっかりと向き合い、最適な医療を提供するためには、医学的知識のみにとどまらず、患者さんを全人的に理解できる広い視野や社会性が不可欠です。皆さんもこれからの6年間に基本的な医学的知識や医療者としての基本姿勢を学ぶことに加えて、自主研究や課外活動などを通じて学内外の多くの人々と交流をして人としての視野や見識を広げてもらえればと思います。

医学・医療は急速な勢いで進歩し続けており、教科書の内容がすでに過去のものになっていることも少なくありません。常に未来が創られている世界です。是非皆さんにも医学・医療の未来を創るひとりになってもらえればと思いますし、われわれ教職員もしっかりとそれを支援したいと思います。

皆さんが充実した学生生活を送り、自らが夢描く医療人へと成長されることを心より願っています。

〝新たな経験と出会い〟を大切に

北里賞受賞者
内科学（循環器）教室　遠山　周吾（85回）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！医学生としての新たなステージに入り、期待に胸を膨らませていることと思います。これから医学部で6年間、研修医としての2年間、さらにその先も含めて、多くのことを学び、全く新しい経験をたくさんすることになると思いますが、医学部での6年間は将来の方向性を決める際のきっかけとなるイベントがかなり高い確率で起こります。その6年間を過ごす上での私のメッセージは、是非〝新たな経験と出会い〟を大切にしてほしいということです。

少し私自身の話をさせていただきますと、大学生になった際に、これまでに経験できなかったことをやってみよう、と思い、部活（中でも最も苦手とした水泳）に打ち込みました。そこで、これまで経験したことがないような感動や挫折等、多くの貴重な経験をしましたし、尊敬する先輩や同輩、後輩に出会いました。私は現在、医師として19年目に入りますが、その際の経験が確実に生きていますし、今でも研究や臨床において、そこで出会った方々に助けられています。部活を例に紹介しましたが、部活に限らず、何かに打ち込むことで間違いなく学ぶことが多くあるはずです。

また、医学部3年生時には、塾内外の研究室に所属して研究を学ぶ機会があります。私の場合は、その際の学びや恩師との出会いが、現在の研究に繋がっており、将来の方向性を決定づけるきっかけになりましたし、理想の研究者像をイメージするのにも役立ちました。

さらに、講義や実習、その後の研修医・専修医の期間を通じて、理想の医師像をイメージすることができるようになりました。理想の研究者像や医師像をイメージすることで、どういったことを磨けばよいかが見えてくるはずです。

学生時代には不勉強で気づかなかったのですが、慶應医学部には、塾内外に道なき道を切り拓く世界のトップランナーがたくさんいます。是非興味を持ったら、躊躇せずに積極的に飛び込んでみてください。うまくいく・いかないに関係なく、そこでの〝新たな経験や出会い〟が将来に繋がるものになると確信しています。皆さんが学生生活を通じて、多くを学び、たくさんの経験し、そして出会い、世界に羽ばたかれることを祈念しております。

新たな時代への一歩：医学部新入生への歓迎と展望

北島賞受賞者
整形外科学教室　渡辺　航太（76回）

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。医学部の先輩として、心から皆様を歓迎申し上げます。この4月から、皆様は医師としての壮大な旅の第一歩を踏み出しました。医師は、医療現場で直接的な治療を提供する基本的な役割を持ちながら、地道な研究を通じて科学と医学の進歩を推進し、未来を切り拓く存在です。私は外科医ですが、革新的な手術法の開発を通じて多くの人を救い、医学の発展に寄与するという方法もあります。

私は整形外科医として、脊柱側弯症の治療においてAIをはじめとする最先端テクノロジーを研究および治療に取り入れています。このような最新技術の医学への応用は、医学界における新たな課題として浮上しています。かつての知識を詰め込むだけの試験勉強が、AIの導入により過去のものとなる可能性がある現在、私たちは自らの能力をどのように定義し、特徴付けるべきかを深く考える必要があります。柔軟な思考で新技術を取り入れ、独自の能力として活用し、医師としての個性と才能を最大限に発揮していただきたいと思います。

さらに、減少傾向にある日本の人口問題を考慮し、国際的な視野を持つことが今まで以上に重要です。他国の医師が参入する可能性が高まる中、国内に留まるだけでなく、世界中の医療情勢とのバランスを取りながら、国際的な視点から医療に貢献できる医師を目指してください。この10年、20年で世界と日本の情勢は大きく変わりました。日本は多くの分野で困難に直面していますが、逆境を乗り越え、時代と世界をリードする医師になるための挑戦を私たちは皆様に求めています。逆風の中でも前進し続ける力を身につけてください。

入学おめでとうございます。これからの挑戦が、皆様の成長と成功の礎となることを確信しています。未来の医療を担う皆様の一歩一歩に、心からの期待を寄せています。

鑑賞知来

30年―。外科医としての旅路が、この節目に達した。私の外科医としての信条は「凡事徹底」であり、経験を積み重ねるほどに基本がいかに重要かを痛感し、当たり前のことを当たり前に行うことを日々追求している。医師としても後半の時期に差し掛かってはいるが、再生医療やロボット手術など、これまでにない技術やアプローチが登場し、われわれの医療の可能性を広げており、未だ興味は尽きない。しかし、その一方で、それらの技術が安全かつ効果的であることを確認するためにも、基本的な医学的原理を理解し、患者に最適な治療法を提供することが必要であることは言うまでもない。

プライベートでは、中学時代から続けているテニスが私の活力の源である。東京実業団対抗テニス大会の2部リーグに選手として参戦し、元インカレや元全日本選手に叩きのめされながらも、アドレナリンが分泌される非日常体験を大いに楽しみ、人生のモチベーションを上げている。55歳を過ぎてもテニスの技術が向上していることを実感し、鍛錬を怠ることなく、地道な努力を重ねている。

患者が幸福になる医療を提供するには、やはり「自分が幸福である。」ことが大切ではないかと今更ながら気付いた。自分たちの仕事に〝やりがい〟や〝生きがい〟を感じながら、そしてプライベートも充実することで、「はたらく幸せ」が実感できる。そのために、仕事も生活の一環であり人生である、というワークとライフを統合する考え＝ワークライフインテグレーションという概念がわれわれにはふさわしいと考えている。その上で、外科医がたった一度きりの人生で充実した日々を過ごし、仕事を通じて幸せを実感し、自らのやりがいのためにはたらき、その結果として良質な医療を提供して患者が幸せになる、というサイクルがこれからの時代に適しているのではないだろうか。

（外科（一般・消化器）　尾原秀明　72回）

慶應義塾医学部新聞のメールアドレスが新しくなりました

新アドレス
shinbun@sanshikai.jp

このたび三四会ドメイン取得に伴い、慶應医学部新聞のメールアドレスを変更いたしました。

■変更前
sansikai-editor@mediproduce.com
↓
■変更後
shinbun@sanshikai.jp

医学部新聞へのご寄稿、ご意見などは新しいアドレスまでお願いします。
ご不便をおかけしますが、登録アドレスの変更等をお願い致します。

2024年4月
慶應義塾医学部新聞編集室

慶應義塾大学医学部北里柴三郎未来人材育成基金

この度、医学部では、医学の道を志すすべての人への門戸をより大きく開き、優れた基礎医学・臨床医学の視点を持ち合わせ、医学界の発展に大きな足跡を残せるような人材の育成を目的とした新たな奨学基金「慶應義塾大学医学部北里柴三郎未来人材育成基金」を設置いたしました。

北里先生の名に相応しい国際性豊かで新しい医学・医療を切り開く未来の医学部生の養成のためご寄付によるご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

いただいたご寄付は本基金の下、実施する事業の貴重な財源として大切に活用させていただきます。

1　国際的な活動を積極的に行う医学部生に対する奨学金の支給
2　その他北里基金の目的にかなう医学部生への奨学金の支給

将来的に、本基金の元本が充実した段階で、医学部生の学費減免のための財源としても使用できるよう制度の見直しを行ってまいります。

詳しくは本基金のウェブサイトをご参照ください。
https://www.med.keio.ac.jp/giving/academics/kitasato.html